

## 1. 回答数

- ・保護者アンケート回答数 303(世帯数で考えれば、79.3% 児童数で考えると62.7%)
- ・児童アンケート回答数 221(90.6%)
- ・教職員アンケート回答数 28
- ・地域アンケート回答数 16

## 2. 考察

### (1)「よく考え、すすんで学ぶ子」について（項目4～7, 16～18）

学習指導・学習成果に関する評価項目については、「まあまあ当てはまる」＝「概ね良好」の評価点3を上回る項目が多かった。児童は学習内容に手ごたえを感じており、保護者の一定の理解も得られたと考える。職員の自己評価も、過去3年間の中でも評価が高い。年間を通じた授業UD、教科担任制等の取り組みの効果が挙げられる。一方で、「家庭学習に関する項目」は、いずれの対象者からも評価3点を下回る結果となった。数年が経過したマイスタが、形骸化し、個人差が出ていることが考えられる。

外国語・外国語活動やタブレットPCを活用した学習については、児童・教員共に評価が高い。学校内で教員と児童が共に築く学習活動の中で、手ごたえがあるようだ。一方で、保護者からの評価が低い。家庭での活用を推進できていなかったり、保護者からは見えづらかったりする部分だと考える。

### (2)「助け合い、認め合える子」について（項目8～11）

規範意識や社会性、道徳性については、昨年度と同程度または上昇がみられる評価が多い。学級や学年経営、異年齢集団の取り組みによって評価されたと考える。一方で、「学校の決まり」＝規範意識について、児童と教員の評価に差がある。「どういう状態が、学校の決まりを守ったことになっているのか」という目標の明確化が必要だと考える。

### (3)「じょうぶでがんばる子」について（項目12～15）

学校給食への評価が高い。児童や教員の「規則正しい生活」の評価からもわかるように、家庭と学校が同じ方向を向いて、教育力を高めていけるようにしていく。

「安全」について、けがや事故の予防については、概ね良好であるという評価である。しかし、休み時間や登下校でのけがを目の当たりにする教員の視点では、今後も一層の指導が必要だと考える。今年度5月から、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行した。このことから、「ソーシャルディスタンス」「徹底した感染症対策」とは違う生活が始まっている。マイナスの意味ではないが、過去の評価と比較すると、下がるのは必然と考える。

## 3. まとめ

- 授業内容や学習内容に児童が手ごたえを感じている。→「参加」「理解」の向上
- 学習が楽しい、やりたいと感じている。
- 課題であるあいさつだが、声をかけ続けて、一定の評価につながった。
- 自分や他者を大切にしようとする態度が向上している。
- 給食の献立は過去の実績同様、満足を得られている。
- 保護者からは、HP、メール、お便り等の情報開示への一定の満足を得られた。
- △家庭学習「マイスタ」の取り組みに個人差がある。
- △学びたいと感じながら、家庭学習の取り組みに至っていない。→「何を、どうやるか」
- △社会性「決まりを守る」ことへの評価に、児童と教員の意識の差がある。→目標を明確に
- △規則正しい生活について、家庭と教員に意識の差がある→さらなる連携が必要。
- △感染症対策の評価がいずれも下降。→徹底した感染症対策ではなくなった。
- △タブレットPCの活用や外国語の取り組みについては、児童の評価は高いものの、保護者に見えづらい部分として、評価が低い。保護者の関心が高くなっている部分である。
- △読書活動への取り組みへの評価が低い。どのように推進していくか。
- △児童が求める「悩みや相談への対応」不安や不満を伝えられない子への気づきが課題